

生涯学習・社会教育関係職員研修講座【西北地区研修】

9月22日(金)13:30~16:10 つがる市生涯学習交流センター 松の館 受講者20名(オンライン含む)

1 趣旨

生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等の資質向上とネットワーク形成を図ることを目的に、業務遂行に係る基礎的・実務的な研修、地域課題の把握と課題解決につながる実践的な知識・技能の習得のための研修を行う。

2 内容

【講義】「地域と防災」

一般社団法人 男女共同参画地域みらいねっと
代表理事 小山内 世喜子 氏



3 講義要旨

- 「男女共同参画地域みらいねっと」は、誰もがその人らしく個性と能力を發揮し、自信を持って主体的に生きることができる地域社会づくりをめざしています。
- 防災の取り組み事業として、多様性配慮の避難所運営訓練や防災地域人材育成事業、防災ネットワーク事業、将来の地域防災の担い手を育成、そして、新事業として被災者支援があります。
- 災害時に大切なことは、自分の命は自分で守ることです。公助だけでは限界があるので、多様な人々の参画が重要になります。
- SDGsの観点から、「誰一人として取り残さない地域防災」を考えたときに、「性別にとらわれず、一人ひとりの能力を認め合い・活かし合う」ということを常に意識してほしいと思います。

4 受講者の感想から

- ・避難所は災害から避難できればそれで十分役割を果たすという認識でしたが、多様な配慮が必要だと理解できました。
- ・男性にできること、女性にできること、それぞれに必要なものは必ずあり、それらを吸い上げる工夫が絶対に必要になるので、女性も運営に関わることが一番よいと思いました。
- ・有事の際は、公助に限界があるため、住民が自助・共助に取り組めるように、平時から、住民に対して研修会を開くなどする必要があると感じました。

本研修は、講師 小山内氏から、ジェンダー視点を取り入れた防災や災害時の多様性配慮の必要性など、実際の御自身の活動経験から見てきた成果や課題等に焦点を当てながら御講義いただきました。グループワークでは、「誰一人として取り残さない地域防災」の取り組みについて話し合い、受講者から強い関心が寄せられていました。

